

西原の姿③

前回、町史では、昭和二十年一月の製糖工場のようすを空中写真でみましたが、今回は戦後のようすをお話しします。

写真は、現在の製糖工場跡地で、住宅が建ち並んでいるのがよくわかります。

この地域は、飛行場用地として土地を奪われた旧崎原・旧仲伊保・旧伊保之浜の集落の人々は、村（当時）民に割り当てられた製糖工場跡地・試験場跡地・住宅跡地などに住居を構えるようになりました。旧集落は、一九七七年の行政区改編までは、戦前同様に区長がおかれ、それぞれの行政区として機能していました。

各地に点在していても、行事のたびに集ったといえます。集落の姿がなくても、人々の団結心は強かったことがうかがえます。



戦前から製糖工場の立地によって賑わいをみせた兼久ですが、戦後もこのように住宅が密集する地域となり、さらに西原村役所（当時）が字与那城に置かれていたこともあって、兼久は商店・映画館・写真館などが軒を連ねる繁華街となっていたようです。

その当時の賑わいの様子を覚えている方、または写真におさめた方もいらっしゃるのでは？ぜひその当時の様子を撮った写真などがありましたら、町史編集係までご連絡いただけたいらうれしい限りです。どうか、よろしくお願います。

西原町教育委員会生涯学習課 町史編集係
電話／九四五・五三五五